

## 第1章 まちづくりNPOの成果

---



## 1-1 助成対象団体の概要と活動年表

1-1では、助成をきっかけにとくに大きく発展したと考えられる助成対象団体のなかから、活動分野のバランスを配慮しながら、その典型と思われる12団体（下記一覧参照）を選出し、既存資料およびヒアリングを基に概要と活動年表をとりまとめた。読みやすさを考慮し各団体3～4ページずつにまとめたが、いずれの団体も多様な活動を展開し、豊富な実績を持っているため、まとめるのはたいへんな作業であった。

概要は、活動の背景と目的、主なプロジェクト、成果と課題の3項目について整理している。活動年表は、「主体」「交流・ネットワーク」「資金」「拠点」「情報」などをキーワードにとりまとめている。団体の発展や飛躍のきっかけなど、そのダイナミズムを読み取っていただければと思う。

	調査団体名	活動地域	活動分野
1	玉川まちづくりハウス	東京都	住環境整備・改善
2	川の手倶楽部	東京都	コミュニティ活動
3	谷中学校	東京都	住環境整備・改善
4	自立支援センターふるさとの会	東京都	居住問題
5	松陰コモンズ	東京都	参加型住まいづくり
6	村上町屋商人会	新潟県	街並み・建物再生
7	小諸町並み研究会	長野県	街並み・建物再生
8	ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会	滋賀県	街並み・建物再生
9	釜ヶ崎居住COM	大阪府	居住問題
10	エコネット津山	岡山県	コミュニティ活動
11	安心院町グリーンツーリズム研究会	大分県	地域交流・連携
12	やまさか暮らし研究会	福岡県	高齢化問題

## [ 1 ] 特定非営利活動法人玉川まちづくりハウス

■活動地域：東京都世田谷区玉川地区

■設立年月：1991年4月

■助成事業・年度：住まいとコミュニティづくり活動助成（1993、2001年度）

### ■活動概要

#### [活動の背景と目的]

世田谷区玉川地区において、生き生きとしたコミュニティを育て地域にふさわしい豊かな住環境をつくるために、暮らしや住まい及び身近な環境の改善に取り組む住民の活動を専門家として支援することを目的とした団体である。

メンバーは主にまちづくりの専門家で構成されており、事務所がある世田谷区の玉川地区の住民自身が、主体的に関わる活動に対してアドバイスや参加のプログラムの作成と実践を行っている。

世田谷区が1992年に設置した「まちづくりセンター」「まちづくりファンド」の企画に携わり、市民に期待される「まちづくりハウス」の設立を志すことになった。

団体設立のきっかけは、世田谷区役所が区民に呼びかけた玉川浄水場上部公園計画提案競技に地域住民約50人と共に応募したことによる。この経験を契機にメンバーの自宅を事務所にして設立した。

時代は住民参加、住民主体のまちづくりの可能性を求め始めたころでもあり、その流れを捉えての設立であった。

#### [主なプロジェクト]

##### ①公共施設づくりの支援

区施設の設計から運営までのプロセスに周辺住民が参加するにあたり、専門家として行政との橋渡しやワークショップの開催を担っている。

以下の施設においてそれを実行した。

- ・ねこじゃらし公園（奥沢7丁目）
- ・玉川コミュニティガーデン
- ・デイホーム玉川田園調布

##### ②住民の自主組織の支援

上記の活動の結果、公園を運営を担う「グループねこじゃらし」、デイホームの活動を支える「楽多の会」、あるいは「クラシック音楽を楽しむ会」などボランティア組織が誕生し、その設立と運営



▲コミュニティガーデンで人形劇

の支援を行った。

### ③住環境計画づくり支援

玉川田園調布地区において敷地の細分化による環境悪化が問題になり、町会である玉川田園調布会による自主的なアンケート実施にハウスが協力した。その結果、ミニ開発を防ぐ制度の活用が必要と考えた。それを実現するためにまず区の街づくり条例に基づく住環境協議会が組織された(1997.5.2)。ハウスがその事務局を担っている。その後3年間にわたる調査と検討の末、「地区計画」(2000.2.25)、建築制限条例(2000.3.13)、「まちづくり協定」(2000.4.17)が策定されるに至った。また、その後の地区計画、基準法が遵守されているかのチェックのために「計画確認チーム」が発足している。

### ④勉強会の開催

1994年10月から1998年4月まで「まち守り勉強会」を開催し、定期借地権や相続の問題についての勉強会を開催した。

### ⑤地域通貨「DEN」の普及

2000年夏より発行している。地域のパン屋さんに協力してもらい、パンに換えられる「パン本位制」をとっている。

## [成果と課題]

この団体は、まちづくりの専門家集団であり、知識はもちろんのこと、技術、特に地域の住民の参加を支援し、住民の力を引き出す専門性を持っている。

また、主に事務所が位置する決して広くない地区をエリアとして集中的に活動しており、まさに地域の専門家が地域に役立つ活動を実践している。

そして1991年以來の支援活動により、施設完成後の自主的な住民組織の誕生や、地区計画や条例の策定、その後の運用上の仕組みができあがるなど、いわば地域の社会資本が充実してきた。これは、この団体の影に日向に行われた様々な支援の成果といえる。

また、それらの活動を通して、町会や福祉団体、住民とのネットワークが広がり、地域の間人関係が見渡せるところまできた。課題は専従スタッフの不足と活動資金の常態的不足である。また、今後はもっと地域のNPO同士のネットワークをひろげようとしている。

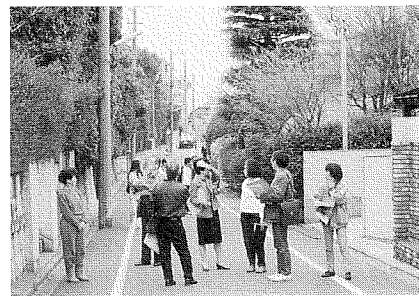
[中村 裕]



▲お試しデイケアでのチェンバロ演奏



▲デイホームを考えるワークショップ



▲住環境協議会の街点検



## [ 2 ] 川の手倶楽部

■活動地域：東京都墨田区向島地域

■設立先月：1988年12月

■助成事業・年度：住まいとコミュニティづくり活動助成（2000年度）

### ■活動概要

#### [活動の背景と目的]

向島地区町会自治会総連合会が主催した「向島の未来を考える」と題したシンポジウムが契機になり、向島のまちづくりを地元主導で進めたいとする住民有志が集まり、専門家も加わって1988年に発足した。

住民主体のまちづくりを進めることで、向島を下町の文化を受け継ぎながらも果敢に新しい文化の創造に挑戦する「粋な墨堤界限」にしてゆくことを目的としている。

墨田区向島地域は、19世紀まで農村地域が拡がり、風光明媚な土地として親しまれていた。しかし、関東大震災以降、道路等が整備されないままに急速に市街化が進み、細く曲がりくねった道路や路地に古い木造の建物が密集して建ち並んでいった。街は活気に満ちていたものの、防災上危険な地域とされ、居住環境の問題も抱えることとなった。

防災上の課題に対処するため、1970年代に白鬚東防災拠点整備され、1980年代からは京島2・3丁目や一寺言問地区において住民と行政のパートナーシップによる地域の改善の取り組みが進められたが、関係住民の合意形成が難しい上に、行政の財政事情の逼迫などから、地域全体の改善がなかなか進まない状況にある。

一方、少子・高齢化や地域産業の衰退、空き地・空き家が増加により、地域の活力が急速に低下しつつある。防災や居住環境の課題以外に、空き地・空き家の活用から子育てや高齢者支援まで多くの検討課題が浮かび上がってきている。それぞれの課題は相互に密接に深く関わっており、総合的なまちづくりを展開するためには、地域の様々な資源を活用し、潜在的な地域の力を引き出すことが必要とされている。

#### [主なプロジェクト]

発足以来、シンポジウムの開催、地域の生涯学習センター建設計画に対する提言、平成の向島八景の選定、



▲向島博覧会 2001 のリーフレット



▲向島博覧会案内所

